

中心市街地の空き店舗活用は

今週の活動から



郷土資料館の「わたしのお宝展」。市制60周年を記念して厚木出身の著名人のお宝も展示。榊原郁恵さん、前田亘輝さん(TUBE)、斉藤愛璃さん(プロゴルファー)等のお宝は会場でご覧ください。今回のお宝のテーマは「青春」。

2月28日(土)まで、厚木市郷土資料館で開催。映画「三丁目の夕日」に出てきた三輪自動車『ミゼット』の前で。

(上：右・釘丸久子議員、左・栗山香代子議員)



1月31日、厚木市立病院の新病院第1期工事竣工式典が行われました。中は広く、4人室もまるで個室のようです。物心両面での良好な療養環境を期待します。救急手術棟と病棟

(A棟)が完成し、3月1日(日)には、入院患者や医療機器等を新病院に移し、外来診療は3月2日(月)から開始します。がん診療の強化、透析医療の充実、診療科目は現15科から27科になり、細分化して専門性の高い医療を提供できるようになります。左が救急手術棟、右側が現病棟です。平成29年春の全面オープンに向け、さらに工事は続きます。(下：栗山香代子議員)

開閉式大屋根のバードハット



鳥取駅前にある道路「太平洋線」、かつてはにぎわいの核であったが、10年間で通行量が3割減となり、空き店舗が増加、広い4車線の道路で人の流れが分断されていた。平成20・21年に各10日間の実証実験を経て、「鳥取駅前太平洋線再生プロジェクト」検討委員会」を設置、パブリックをメを実施後、再生プロジェクト基本計画を策定した。

「道路から前庭空間・舞台へ」「芝生広場の整備でにぎわい空間を創出」「開閉式大屋根の整備で年中利用可能」「地元商店街と芝生広場の管理・運用の協定」「既存交通の確保」などである。平成25年7月に竣工式。イベントとして、音楽祭、映画祭、防災フェスタ、まちなか公開ウェディングなどが開催されている。道路占用許可の特例を活用し、芝生広場にテーブル・いすを設置。沿線の空き店舗の解消も。商店街振興組合が広場・大屋根の維持管理、イベント企画等の実施をし、市や関係機関は支援。課題として、商店街・個店が、来街者をとりこむ方策の検討が必要である。前は物販だったが、現在は居酒屋通りのようになっている。広場の芝生は使えば痛む。冬はイルミネーションで飾っている。すぺーす「コモド」



パレットとつとりの前で

空き店舗を活用。目的は、商店街の振興、子育て支援、次世代育成、交流促進で、実施主体は商店街振興組合、運営は社団法人地域サポートネットワークとつとり。25年度の事業費1496万円のうち半分は市補助金、残りは自己資金(利用料収入等)。1階は広場と託児サービス、子育て用品などの委託販売など。2階は

平成10年、大型店舗(ダイエー)撤退。市が土地(1729㎡)を購入、30年間の借地契約をし、商店街振興組合が建物を所有。「新たなまちなかの交流の場」として、生鮮食料品等の日常生活関連業種、コミュニティ機能を持つ多機能拠点施設として整備。鉄骨造2階建延べ床面積2526㎡で、1階に商業テナント7店舗と駐車場、2階に商業テナント9店舗と市民交流ホール、テラス。運営は商店街振興組合、市民交流ホールは商工会議所に運営委託、市が一部支援。事業費3億7750万円のうち、国が30%、県が30%、市が22%、商店街が18%。入館者数は34万人を目標としていたが、昨年度は58万人超になっている。

1月26・27日、厚木市議会中心市街地活性化検討協議会の行政視察に栗山香代子議員が行きました。行先は、鳥取県鳥取市。市政施行が明治22年。平成16年に1市6町2村が合併し765・66km²、人口19万2千人の特例市であり、因幡の白うさぎの伝説の地、鳥取砂丘が最大の観光です。特産品に二十世紀梨、豆腐竹輪、松葉ガニ、ラッキョウなどがあり、市の花ははらつきょうの花。今回の視察では中心市街地の事業説明を受け、現地を3か所見てきました。

「道路から前庭空間・舞台へ」「芝生広場の整備でにぎわい空間を創出」「開閉式大屋根の整備で年中利用可能」「地元商店街と芝生広場の管理・運用の協定」「既存交通の確保」などである。平成25年7月に竣工式。イベントとして、音楽祭、映画祭、防災フェスタ、まちなか公開ウェディングなどが開催されている。道路占用許可の特例を活用し、芝生広場にテーブル・いすを設置。沿線の空き店舗の解消も。商店街振興組合が広場・大屋根の維持管理、イベント企画等の実施をし、市や関係機関は支援。課題として、商店街・個店が、来街者をとりこむ方策の検討が必要である。前は物販だったが、現在は居酒屋通りのようになっている。広場の芝生は使えば痛む。冬はイルミネーションで飾っている。すぺーす「コモド」

「パレットとつとり」にぎわい拠点施設。当初、この場所が高齢者向けにお笑い道場を開いたが、方向転換。子育て支援の施設に変え、法人の運営になっている。親子だけでなく、空き時間を利用して、利用を増やすなどの工夫をしている。